

みどりの街づくり賞

港区 景観街づくり賞

区民景観セレクション

令和6(2024)年度  
受賞施設等

## 目次

港区みどりの街づくり賞 受賞施設	01
oak 港南品川	
Mita S-Garden	
プラウドタワー芝浦	
ワンルーフレジデンス田町	
3rd MINAMI AOYAMA	
審査会委員総評(港区みどりの街づくり賞)	06
港区景観街づくり賞 受賞施設	07
3rd MINAMI AOYAMA	
Mita S-Garden	
港区景観街づくり賞 奨励賞 受賞施設	09
ジューテック本社ビル	
CORNES HOUSE	
港区景観街づくり賞 特別賞 受賞団体	11
港区アドプト・プログラム—道路・公園のボランティア活動	
審査会委員総評(港区景観街づくり賞)	12
港区区民景観セレクション 受賞景観	13
太古と現在がかさなる場所 芝丸山古墳	
Which way? 札の辻	
夕暮れの運河の船溜まり	
高輪の眺めの良い階段	
みなとパーク芝浦のデッキ	
煉瓦アーチ高架橋1909	
高輪消防署二本榎出張所	
多様な人が集まる、青山のみゆき通りのエンジュ並木	
自然の中のカフェ	
六本木ヒルズを望む	
地域の氏神様 春日神社	
審査会委員総評(港区区民景観セレクション)	20

## 港区みどりの街づくり賞とは

港区では、昭和54年度から建築計画に伴う緑化計画書の提出を義務付け、緑化の指導を行ってきました。緑豊かな都市づくりには、公共の緑とともに、民間施設の緑化が重要な役割を果たしています。

「港区みどりの街づくり賞」は、優れた緑化計画を行い、その緑地を維持している区民や事業者の緑化施設を表彰し、地域緑化への協力に感謝を示すとともに、さらなる民間緑化の発展を願って、平成16年度に創設しました。

対 象	原則として、前々年度に完了した建築計画に伴う緑化施設で、港区みどりを守る条例施行規則の緑化基準を満たしているもの
審査・選定基準	学識経験者、都市緑化に造詣の深い区民及び環境リサイクル支援部長で組織する港区みどりの街づくり賞選定審査会が、以下の選定基準を基に決定します。 ①周辺の景観と調和し、優れたデザインであること／②維持管理が適切に行われていること／③自然環境の保護と再生に努めていること／④建築物と植栽地がバランスよく配置されていること／⑤既存樹木を活用していること／⑥あらゆる生きものが、相互に関わり合いながら生きられる生物多様性に配慮した植栽計画となっていること／⑦在来植物を取り入れていること／⑧地域社会とのつながりを持ち、地区への貢献度及びみどりの公開性が高いこと／⑨先進的又は総合的にレベルの高い緑化技術を取り入れ、新しい緑の創出に創意工夫がなされていること

## 港区景観街づくり賞とは

港区では、平成21年に港区景観条例を施行し、同年に港区景観計画を策定しました。これらの条例・計画に基づき、建築物の建築等の際に区との景観協議を義務付け、助言・指導を行っています。

「港区景観街づくり賞」は、良好な景観の形成に関して功績のあった民間の施設や活動を表彰することで、皆さんの景観に対する意識の向上を図るとともに魅力ある街づくりを推進するため、平成23年度に創設しました。

### 港区景観街づくり賞・港区景観街づくり賞奨励賞

対 象	区と景観協議を行った民間施設のうち、前々年度に完了報告書が提出されたもの
審査・選定基準	港区景観審議会委員、港区景観アドバイザー及び街づくり支援部長で組織する港区景観表彰選定審査会が、以下の選定基準を基に決定します。 ①周囲からの見え方に配慮があり、周辺の街並みと調和しているもの／②建築物、植栽等がバランスよく配置されており、憩いと安らぎを創出しているもの／③地域特性を生かしており、まちの魅力の向上に貢献しているもの／④地域社会とのつながりを持ち、区民等への貢献が高いもの／⑤都市景観の創造に先導的な役割を果たしているもの
そ の 他	特に優れていると認める施設を「港区景観街づくり賞」に、より一層の良好な景観形成を期待する施設を「港区景観街づくり賞奨励賞」に選定し、各受賞者に記念品を贈呈します。

### 港区景観街づくり賞特別賞

港区景観条例による届出対象以外の、良好な景観形成に功績のあった施設や活動に対し、感謝の意を込めて表彰します。

## 港区区民景観セレクションとは

「港区区民景観セレクション」は、区民が誇り、愛着を持つ景観を募集・表彰することで、良好な景観の周知・共有を図るため、平成29年度に創設しました。

対 象	「区民が誇り、愛着を持つ街並みその他の景観」として区民等により応募されたもの
審査・選定基準	港区景観表彰選定審査会が、以下の選定基準を基に決定します。 ①地域性が感じられるもの／②波及性があるもの／③発見性があるもの
そ の 他	グランプリを選び、その応募者に記念品を贈呈します。

オーク  
**oak 港南品川**

- 所有者：大林新星和不動産株式会社
- 設計者：株式会社大林組一級建築士事務所
- 施工者：株式会社大林組
- 所在地：港区港南二丁目10番9号
- 施設用途：事務所
- 敷地面積：2,635.57㎡
- 緑化面積：538.21㎡
- 接道部緑化延長：73.56m
- 緑化面積率：20.42%
- 接道緑化率：62.88%



**選定にあたっての評価コメント**

周辺の緑地との関係を見ながら、公開緑地としての三角形の広場が、建物西側に設置されている。ケヤキの高木の周囲にサークルベンチが配置されていて、よく見かけるシーンだが、三角形の一辺が一般歩道と接しているため、より外に開かれたコミュニティ広場とすることに成功している。また建物東側の交差点に接するコーナーにはタブノキが列植され、建物隅はピロティになっていて、待ち合わせや雨天時には雨宿りができる。これは、そこに住み、働き、またそこを訪れる人々にとってはありがたいスペースだろう。防風のために植栽されたタブノキの列植は、樹木の成長とともにやがて、そこが頼もしい「守られた空間」に育つことに貢献するだろう。建物周囲に巡らされたガラススクリーン部分が、マッシブな建物本体の存在感を軽くし、樹木の映りにも有効に働いている。機能だけではなくデザインもすぐれている。地域で愛される場所となることを願う。



# プラウドタワー芝浦

所有者：プラウドタワー芝浦管理組合  
建築主：野村不動産株式会社  
設計者：株式会社竹中工務店 東京一級建築士事務所  
施工者：株式会社竹中工務店 東京本店  
所在地：港区芝浦四丁目15番1号  
施設用途：共同住宅、子育て支援施設  
敷地面積：4,134.51㎡  
緑化面積：1,201.35㎡  
接道部緑化延長：91.60m  
緑化面積率：29.06%  
接道緑化率：72.15%

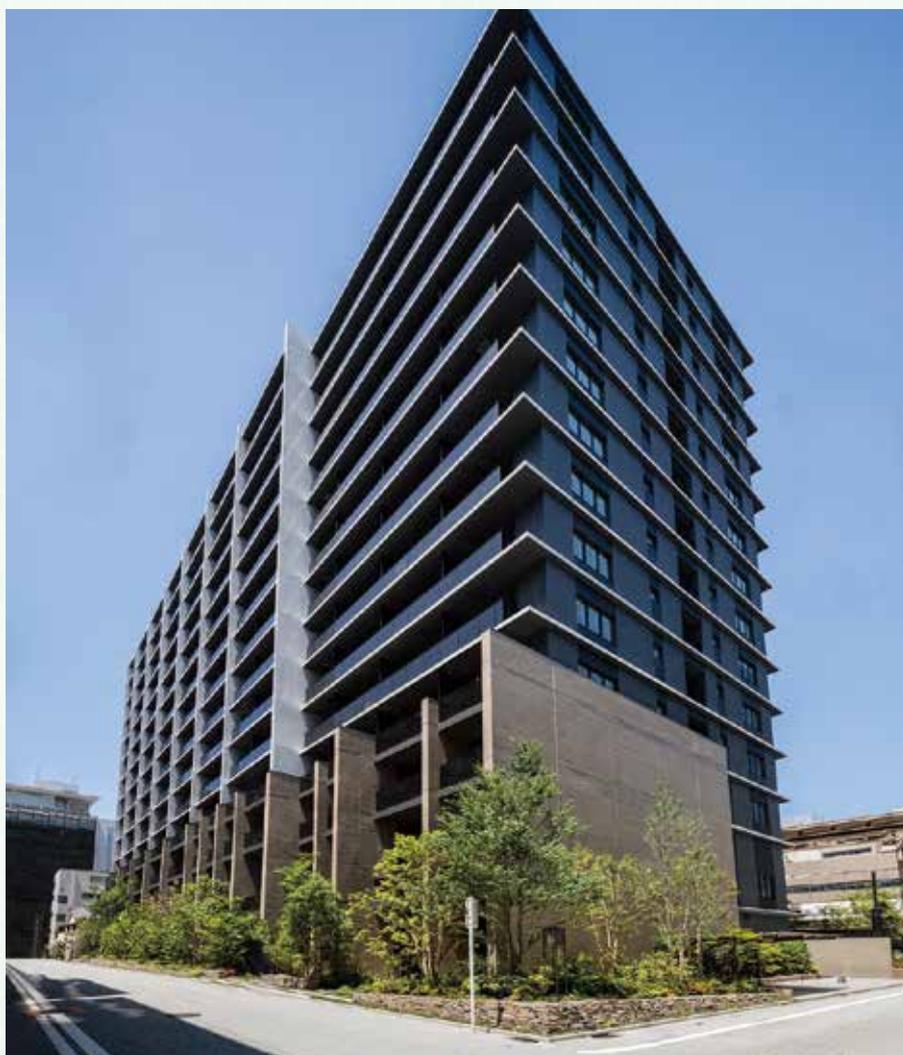


## 選定にあたっての評価コメント

近くに公立小学校がある立地の交差点に面する道路と一体となってプラウドタワー芝浦の緑地は広がります。公開空地が生き、設えられた円弧形ベンチには、連日下校タイムの小学生が雀の子のように賑やかに連なり、地域住民も通勤者も歩道のみならずこの緑地内を心地よく行き交い、時に休憩している様子が日常風景となっています。小さくとも水場の存在は多くの生き物にとって恵みであり、その水景の向きで外来者を建物に近づけすぎない工夫が感じられます。植栽には「様々な樹種を混在させて多様性を」という目的のとおり、なかなかお目にかからない樹種もあり、地域特性や統一性よりも面白みが見出せます。控えめな樹木ライトアップと和風モダンな照明器具で夜景もまたいい雰囲気を醸し出しています。以前この地にあった建物基礎を使って設けた地下駐輪場への出入口の配置や扱いがスマートで好印象。現在はまだ若い木々が適切な手入れをされながら歳月を経て「まちの森」となる頃がとても楽しみです。

# ワンルーフレジデンス田町

管 理 者：UBS ジャパン・アドバイザーズ株式会社  
建 築 主：特定目的会社ゴールドD  
設 計 者：株式会社アーキタンツ  
          デザイン監修:UDS株式会社  
施 工 者：西松建設株式会社  
所 在 地：港区芝浦一丁目15番7号  
施 設 用 途：共同住宅(賃貸)  
敷 地 面 積：1,829.44㎡  
緑 化 面 積：236.28㎡  
接道部緑化延長：94.01m  
緑 化 面 積 率：12.92%  
接 道 緑 化 率：71.23%

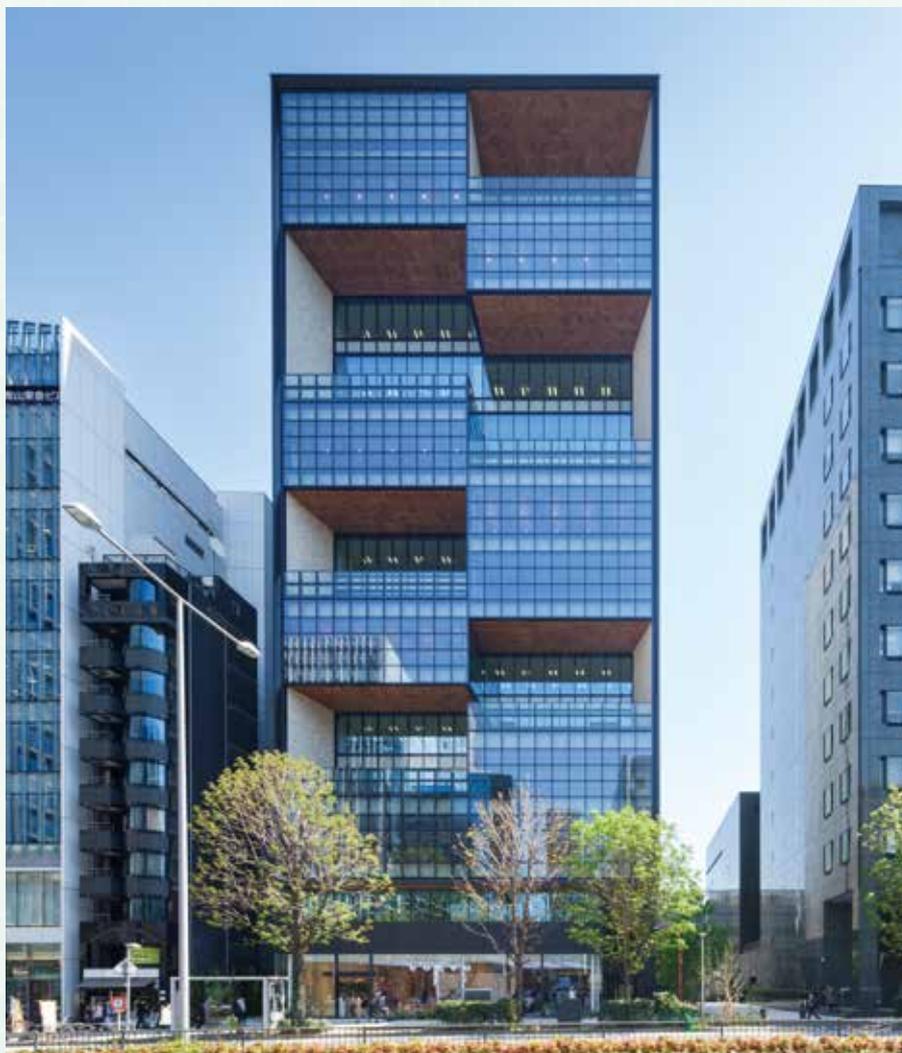


## 選定にあたっての評価コメント

14階建ての賃貸マンションで1R/1K、1DK、1LDK、の合計が213室、2LDKが30室となっている、つまりワンルームが主体のマンション。港区内のワンルーム系のマンションは緑地面積、植栽本数がほとんど基準ギリギリで、駐輪場を設置したら道路からは植栽などほとんど見えず、緑化などやりたくないという印象のデザインが多い。しかしこの案件は敷地の立地特性を汲み取り、基準を超える緑化面積、接道緑化を行っており、植栽により緩やかに仕切りフェンス等も設けず道行く人にも楽しめる状況。またその内容も武蔵野の里山をモチーフにした雑木の風景となっており、シンボルツリーのヤマザクラを印象的に使った四季の変化が楽しめる植物になっている。また、その植栽に品格を与えることに成功しているのが接道部に設置されている根府川の石積み。建物のファサードの色調もあいまってエクステリア含めてよい景観になっている。

# 3rd MINAMI AOYAMA

所有者：有限会社五光／ジャパンリアルエステイト投資法人  
事業主：有限会社五光／三菱地所株式会社  
設計者：全体設計監理：株式会社三菱地所設計  
ランドスケープ設計：大林ランドスケープ設計事務所  
施工者：鹿島建設株式会社  
所在地：港区南青山三丁目1番34号  
施設用途：事務所、物販店舗、飲食店舗、駐車場  
敷地面積：2,405.82㎡  
緑化面積：568.02㎡  
接道部緑化延長：67.70m  
緑化面積率：23.61%  
接道緑化率：78.00%



撮影：西川公朗

## 選定にあたっての評価コメント

青山通りからは建物の両脇の通路が緑化されているぐらいしかわからないが、地上13階建てのオフィスビルの足元を階高8mにもなるピロティ空間と、エントランス園路の外部空間を組み合わせ路地のように扱い、様々な緑の空間をつくり、建物利用者、周辺住民の憩いの場を創出している。南側奥に設置された店舗の庭のようなポケットパークの北側には、築山のような緑地を見るウッドデッキテラスの演出も面白い。ポケットパークの奥のアクセントになっているコンクリート焼き杉板仕上げのウォールは建物、舗装等を調和し面白い景観を作っている。また、その北側には社がおかれ、静かな空間となっている。このように雰囲気違った場がいくつかできているが、緑地と舗装の扱いがうまく、違和感なくつなげている。北側の外苑西通りからの侵入が階段になっていることで若干わかりづらいが、それもこの空間の面白いところで、わかる人しか通れない、まさに下町の露地のような雰囲気。

# 審査委員総評

## 与条件を生かすことの大切さ

大都市、東京、港区の中に「みどりの街づくり景観」を創出すること自体、至難な課題だと思う。しかし、さまざまな条件をクリアした作品を受賞対象として選ぶことも簡単なことではない。都市空間には与条件として、すでにやっかいなものが敷地内に山ほどある。敷地内外の河川(水面)、高架道路、隣接するビル群、既存の公園や緑地等々、こうした条件を組み上げて、作品の構想を練ることになる。当初から建物の目的・形状が決められて、どう配置するかの手順がほとんどかと思われるが、あまりに建物が巨大である場合、これをすべてに優先すると、与条件を生かすこと自体が困難となる。例えば、建物(機能)の分散によって、景観構成を考えれば、敷地の内外にある水面(河川)の存在も緑(植物)以外の自然要素として有効利用も可能となるのではないか。計画・設計に先行して、与条件を生かす景観構成を是非構想してほしい。



赤坂 信

千葉大学 名誉教授



山崎 誠子

港区景観審議会委員  
日本大学短期大学部  
建築・生活デザイン学科 准教授  
有限会社GAヤマザキ 取締役

## 港区の地形を生かした緑地づくり

港区は、ホームページを検索するとわかるように北西一帯の高台地、南東の東京湾に面した低地と芝浦海浜の埋立地からなっていて、その台地は武蔵野台地の末端で、東京23区の中で最も起伏に富んだ地形になっていて、区の中央を古川が流れている。今回の候補に上がった案件のいくつかはその起伏ある土地や川のそばに立つものがあり、最終的にそれをうまく取り入れたものが賞となった。今はネット検索の地図情報、ストリートビューなのでその場所に行ったかのような感覚を得られるが、実は地形の感覚がそれだけではわからない。実際に人が見ている風景は道路や川がすこし曲がっていただけでも奥行きが見え方が変わり、風の向きも変わっている。また、自然の高低差はそれを突き進むと視点が変化するなど風景をドラマチックにみせる装置としてとても有効で、造成で簡単に平坦な部分を作ってしまったらもったいない。港区ならではの緑地、地形の作り方を受賞作品にみてもらえると幸いです。

## 21回目の港区みどりの街づくり賞

少子高齢化・人口減少社会の中、都心港区での再開発はまだ旺盛で、オフィスビルの建替えとともに何百戸という集合住宅建設に伴う緑地創生が多かった印象です。嬉しいことに新たな緑地づくりの多くは上手に周囲の緑や広がり環境を取り込んで生かし、まとまったボリュームの緑地となって公開され、地域住民や行き交う人々のオアシスとなっていることが目を惹きました。ただ、新たな緑地づくりの樹種選定には「生物多様性」が謳われ、その理解は一樣ではないことはわかるのですが、開発エリアだけではなくもっと広い視野・視点と、人の寿命より長いその先の未来を見つめて考慮していただけたらと願います。

今回はこれまで以上に、緑の存在がまちとともに人にも、環境にもやさしいまちづくりに貢献することが浸透してきていると感じ、創設から21回目と歴史を重ねた「港区みどりの街づくり賞」が、緑あふれる素敵な港区づくりに貢献していると思いました。



藤野 珠枝

元港区景観アドバイザー  
藤野アトリエ一級建築士  
事務所 主宰  
港区在住



岩男 弘美

港区景観アドバイザー  
有限会社GAヤマザキ  
シニアディレクター

## 開かれたみどり創出

港区は常に街が変動しており、毎年多くの新しい建物・緑地空間が生まれています。受賞作の緑地は、ただの空き地にみどりを植える以上の空間であり、地域の特性や機能、生物多様性、地域貢献などを考え、みどりのある生活をどのように取り入れ、作るのが考慮され、気持ちの良い空間であったと思います。それぞれの緑地空間は、時間が経つにつれてその成熟度が明らかになり、良くも悪くもその変化が見られました。また今後変わっていく可能性がある樹種も見られました。みどりは生き物なためその後の管理次第で見栄え、状態が変わっていきます。その中でも良いと思える緑地空間は地域に開かれ、人々が集うことができるものが多かったです。常に人が見ている場所は樹木が生き生きとしており、見た目も良く維持管理も行き届いていました。今後も開かれたみどりの創出、そしてその後何十年にも渡り維持管理を行う心意気があるみどりを期待します。



# 3rd MINAMI AOYAMA

事業主：有限会社五光／三菱地所株式会社  
所有者：有限会社五光／ジャパンリアルエステイト投資法人  
設計者：株式会社三菱地所設計  
施工者：鹿島建設株式会社  
所在地：港区南青山三丁目1番34号  
施設用途：事務所、物販店舗、飲食店舗、自動車車庫、自転車駐車場  
敷地面積：2,405.82㎡  
高さ：59.98m  
景観協議の対象行為：建築物の新築



撮影：西川公朗

## 審査委員コメント

① 商業系と住居系用途地域。制約の異なるエリアが敷地に併存する状況を逆に、景観の変化に富む小気味よい歩行空間を創出した。表通りの華やかなショールーム、奥まった箇所に洒落たレストラン。表と奥という空間対比を軸に、「緑のプロムナード」、「ポケットパーク」、外苑西通りに抜ける坂道や青山通りに至る「木陰の小道」など、規模感の異なる歩行スペースが組み入れられ、つながれている。地上レベルが歩行者目線によって編まれた、丁寧な仕事だ。

② 交差点に近接し人々が滞留することを踏まえ、建物の壁面をセットバックして青山通りの歩行者に配慮した配置計画となっている。また、青山通りと外苑西通りに接道していることから、奥まった広場状空地と歩行者動線をつなげ、新たな魅力ある通り抜け空間として解放している。その空地の植物選定と配置において、季節ごとに異なる表情を見せる多様な植物が組み合わせられており、四季折々の風景を日常的に感じることができ、訪問者を迎え入れるに相応しい空間を創造している。



# Mita S-Garden

所有者：DM三井製糖ホールディングス株式会社  
 設計者：基本設計：株式会社山下設計  
 実施設計：KAJIMA DESIGN / 株式会社ランドスケープデザイン(外構実施設計協力)  
 施工者：鹿島建設株式会社 東京建築支店  
 所在地：港区芝五丁目26番16号  
 施設用途：事務所、飲食店、駐車場  
 敷地面積：1,786.13㎡  
 高さ：50.47m  
 景観協議の対象行為：建築物の新築



撮影：①解良信介 / URBAN ARTS  
②川澄・小林研二写真事務所

## 審査委員コメント

① 田町駅西口は大通りに面して忙しい印象で、その先に多くの人が行き来する慶応仲通り商店街がある。その入口に緑地を配したビルができ街の風景が変わった。1階ラウンジがガラス仕様のため圧迫感が少なく、昼はガラスに緑が映り、夜は照明の光が染み出し、ベンチの土台のタイルから漏れる明かりも広がって心が和む。柱も土壁風仕上げで自然感UP。カウンターも配置され多様なスタイルでのんびりできそうである。

② 道が広くなった? いや、商店街と駅方面の人の行き来を木の葉越しにうっすら感じさせているのが絶妙なのです。ビルの1階と広場がワンフロアのような開放感。ベンチで社員が棒アイスをかじっていた。高齢者支援課の支援アプリ「みんチャレ」仲間からの「和菓子緑日」通知の場所は、なんとここでした。区民の口コミがあるなんてすごい。多様な集いの可能性は無限大、対応力が最強だと思う。

# ジューテック本社ビル

所有者：株式会社ジューテック(ジオリーブグループ)  
設計者：鹿島建設株式会社 建築設計本部  
施工者：鹿島建設株式会社 東京建築支店  
所在地：港区新橋六丁目3番4号  
施設用途：事務所  
敷地面積：739.56㎡  
高さ：38.08m  
景観協議の対象行為：建築物の新築



撮影：①阿野太一/フォワード  
②鳥尾望/エスエス

## 審査委員コメント

①都市木造に取り組んだ意欲作。構造体自体の工夫もさることながら、柱周りのガラスファサードに凹凸をつけ、そこに間接照明を仕込むなど、通りからどのように見えるかを意識したディテールも秀逸であった。またアイレベルでも、赤レンガ通りのテクスチャを1階部分で積極的に使うなど、周りの文脈を受け継いでいく姿勢も見られたのが好印象であった。

②疲れて「ちいバス」に乗り家路へ向かう途中、夜の工事現場の先で急に暖かいオレンジ色に照らされた。顎をグッと持ち上げ、外を見た。「ホテル？」ガラス張りからの光にほっとした。日中に訪れ、点と点がつながる奇跡。入ると木の香り、香りはダイレクトに脳に効く。木を使う心意気は尊敬に値する。外壁にミストや滝、つる性植物を配せば、涼み処に進化する可能性大。

# CORNES HOUSE

所有者：コーンズ・アンド・カンパニー・リミテッド  
設計者：株式会社竹中工務店  
施工者：株式会社竹中工務店  
所在地：港区芝三丁目3番10号  
施設用途：事務所、物販店舗  
敷地面積：1,436.75㎡  
高さ：59.61m  
景観協議の対象行為：建築物の新築



撮影：①井上登  
②株式会社ナカサアンドパートナーズ

## 審査委員コメント

① 高級輸入車の本社ビルというプログラムと立地条件から、ともすれば周囲の環境から乖離したデザインになりがちなところを、ボリュームの文節や素材の選定などあらゆる側面において丁寧に設計しきることによって、存在感がありながらも威圧感がなく、上質なまちのシンボルとして相応わしい作品となっている。また高速道路側に対する見せ方も素晴らしく、まちの風景に新たな彩りを与えてくれたことは喜ばしい。

② 建物の南側の前面道路に面する部分は、独特な外装材を用いたことによる重厚感と、ガラスカーテンウォールによる透明感と展示物である車の存在感がバランスよく共存し、特徴あるファサードでありながら、この地域に馴染んでいる印象を受ける。また、北側は、首都高速や芝公園からの見え方を意識した建物自体がひとつの広告塔となるようなデザインで、ランドマーク的な要素の強い建物となっており、今後、階層に分かれた屋上緑化の木々が成長とともに変化していく様子が楽しみである。

# 港区アドプト・プログラム 道路・公園のボランティア活動

## 港区アドプト・プログラムとは

港区アドプト・プログラムは、地域の方々が道路・公園の維持管理（清掃や花壇管理等）を自主的に行う活動のことです。区民等が相互に協力し、地域の共有財産である道路・公園等の緑化活動や清掃等を行うことにより、道路・公園等への愛着心を深め、利用者のマナー向上と清潔で快適な街づくりの推進を目的として、平成14年度から実施しています。

## 今年度の受賞団体

今年度の受賞団体は、港区アドプト・プログラムで活動継続5年を経過した団体です。地域の皆さんが主体となった清掃・修景を行うことで、身近な景観街づくりに大きく貢献していただいています。区から感謝の意を込めて、特別賞として表彰します。



## 令和6年度景観街づくり賞特別賞 アドプト登録団体一覧 活動継続5年を経過した団体(令和5年度末時点)

	実施団体	場所・種別	活動内容	地区
1	芝浦桂歯科診療所	道路	花壇管理	芝浦港南
2	根岸 晴美	公園	花壇管理	芝浦港南
3	平化会	緑地	花壇管理	芝浦港南

## アドプト・プログラム問合せ アドプト・プログラムについて 各地区総合支所まちづくり課土木担当

各地区 芝地区 03-3578-2032 麻布地区 03-5114-8803 赤坂地区 03-5413-7015  
電話番号 高輪地区 03-5421-7664 芝浦港南地区 03-6400-0032

# 審査委員総評

## 設計対象を全体として編集し直して見事な成果に

審査会メンバーの専門分野は造園、建築、色彩、景観と多様です。また、公募委員が区民目線で参加しています。だから作品の評価が別れても不思議はありません。が、全員が高く評価する作品が時折登場します。そのような作品はその魅力が全体として一挙に伝わってくる、というのが私の経験です。思うに、設計者は、要らざるものを削ぎ落とし足らざるものを補いながら、設計対象を何度も全体として編集し直している。そんな機会を与えてくれる施主も、それに応えられる設計者も多くはないでしょう。ありがたいことです。いっぽう、そのような作品の講評はもどかしい。評価を、全体としてではなく専門的見地から細かく分析した結果のように書くことを強いられるからです。

## 齋藤 潮

港区景観審議会 会長  
東京工業大学  
名誉教授



## 杉山 朗子

港区景観審議会 副会長  
株式会社日本カラー  
デザイン研究所  
研究フェロー

## まちの未来の姿を期待させてくれる 景観デザインへの多様な取組

周辺住民やビル利用者の毎日の生活への貢献を感じさせてくれる新しい街のデザインの総合的計画が多く見られた。朝昼晩の変化の魅力を倍増させる照明デザイン、快適に過ごせる植栽やオープンスペースの工夫、イスだけでなくテーブルなども配置し読書や飲食もできる空間等々に目を見張る。周辺環境を意識したオリジナリティの高い外装材デザインも何気なく街の品格を上げてくれている。景観という視点から見て、ぐっとレベルアップしたと感じた。道路との関係や地形を活かす視点での検討もされ、その地域の独自性を活かす取り組みとなっている。「都市」の生活デザインの再検討の始まりといえる計画が充実した画期的な年に参加できたことが嬉しい。

## 建築物を見て回り毎日が楽しい小旅行

南海トラフも首都直下地震も政府はくると伝えている。生死にかかわる暑さや豪雨、蚊が媒介する病なども増えている。街に関係する業種は真摯に対応している。様々な変化に対応すべく、思いが詰まった作品達を見せて頂いた。その心意気が詰まった作品達に優劣は付け難いが、特に光ったのが周囲も巻き込みよい方向へ動かした受賞作品だ。周囲を考えたらうで設計、建築され、その配慮する気持ちがより強いと感じた作品に私は惹かれた。作品の関係者には感謝しかない。なぜかという一般的な世の中でより良く調整する面倒見が良い企業や人は有難いのだ。今回の作品達や都会の激しい変化を見て回ると好みの場所かどうか空気感で分かる。毎日が発見、楽しすぎる。

## 根岸 晴美

港区景観審議会  
区民委員



## 若松 美津子

港区景観アドバイザー  
株式会社ウリブカス

## 心地よい緑の空間づくりを

港区は、文化的な背景や歴史、地域性、敷地の条件等が多岐に渡り、景観として方向性を統一することにあまり意味を持たないということに気付かされる、それぞれに洗練された計画をたくさん見ることができた。その中で、地域の景観を守りつつ新たな景観を形成させるという試みを示した計画に評価が高かったように思う。景観の要素の一つである緑の観点から心惹かれる計画とは、計画の規模の大小に関わらず、「ここに腰掛けてアイス食べようかな」と思わせるような、ヒューマンスケールに立ち返るといふ美しさへの追求だけでない少し泥くさいデザイン作業の手間を経た設計のものなんだと強く感じた。今後も永続的な人々に寄り添う緑化空間づくりを期待したい。

## 人々の振る舞いがつくる都市景観

プログラムも規模も異なる数多くの作品同士を比較することは容易なことではないが、ここには選ばれた4作品はどれも「まちとの関係」を考える上で、高く評価されたものである。これらはただ既存の文脈に則っただけのデザインではなく、既存の文脈を受け継ぎながら次の一手が力強く打ち込まれたもので、今後も強い影響力を与えてくれるであろう作品たちだ。具体的には空地を設けることで生まれる動線の活性化や、形態の分節・複雑化によるアクティビティの多様化など、まちとの境界を揺るがすことでコミュニケーションを促している。改めて「景観」とは、建物の立ち姿だけでなく、そこでの人々の振る舞いも含めたものだと思わせる。

## 藤井 亮介

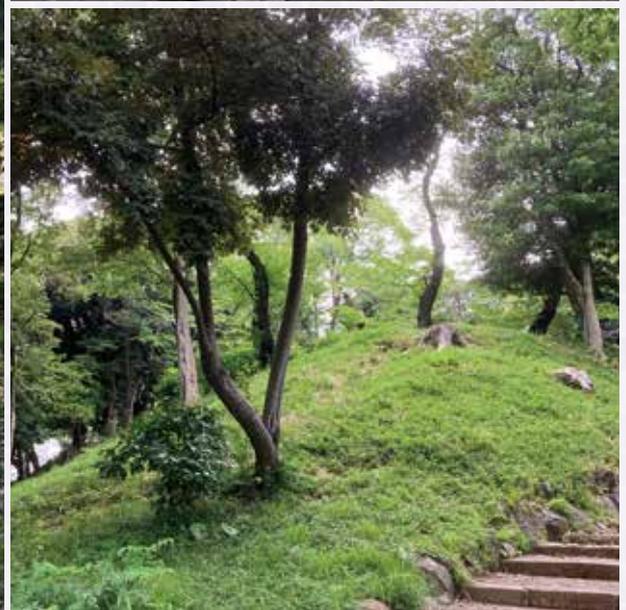
港区景観アドバイザー  
藤井亮介建築研究所





# 太古と現在がかさなる場所 芝丸山古墳

テーマ 私にとっての大事な景色  
自然・地形を感じる景観



## 選定に当たったコメント

丸山古墳を知ったきっかけはエコプラザの講座。子どもイベントで賑わい、猫がいたり、古墳を超えて反対側に行くことができたりする。様々な切り口での古墳作品があり、訪れたきっかけと思い出は人それぞれ。太古からの地の向こうに青い海と潮風さえ感じる。素朴が一番と理解させられる景観。

### その他の評価コメント

- ▶ 都心の港区の古墳。地域の歴史として景観としても大切にしたい。
- ▶ 都心の古墳として景観整備された成果。
- ▶ 割と知られていないスポット。

## 応募者からの推薦コメント

開発が続く大都市東京の真ん中で、古代から続く変わらない地形と古墳群や貝塚を含めた古代からの歴史に思いを巡らせることのできる貴重な場所であると思います。

応募者:山中 崇史(区内在住)

4世紀に建てられた都内最大級の前方後円墳を知る人は区民でも少ないと思います。自由に歩いて、古墳の大きさを感じることができます。周囲には古木も多く、公園開園150年の時間も感じます。

応募者:矢野 隆弘(区内在住)

都内最大級の前方後円墳なのに、高層ビルや東京タワーに囲まれているという驚きの位置関係。しかも、貴重な遺跡なのに木々や緑が覆い、遺跡の上を自由に散歩でき、生活の中に溶け込んでいるところ。

応募者:匿名(区内在住)



# Which way? 札の辻

テーマ 回遊したくなる楽しい通りの景観



## 選定に当たってのコメント

札の辻という名称は高札場が設けられていたことによる。東海道から江戸への正面入口であり、江戸湾が眺められ、絶好の景色であったと言われている。長いこと車で混雑する殺風景な町はずれの交差点だったが、歩道橋の改装などで人が行き来する賑やかな光景が戻ってきた、東京タワーも眺められ夜景もワクワクする街角である。

## その他の評価コメント

- ▶ 新しい視点場からの風景。Y字路ならではの景観。
- ▶ 大きな通りが交わる広々とした都会的空間。
- ▶ 区内の典型的なダイナミックな道路景観。

## 応募者からの推薦コメント

新しく建て替えられた札の辻歩道橋の上から、撮影しました。交通量が多い国道15号と三田通りの二つの別方向の道がきれいに見渡せます。

応募者: 宋 世栄 (区内在住)

# 夕暮れの運河の船溜まり

テーマ 私にとっての大事な景色



## 選定に当たってのコメント

渚橋近くなどのモノレールの景観で第5回受賞済み。ということは「芝浦西運河」に凄い魅力がある証拠。夕凧橋から渚橋の間の船がシュッと過ぎず、写生したくなる夕暮れ時の変化は素敵です。

### その他の評価コメント

- ▶ 船舶とモノレール、高層ビル群が織りなす港区らしい景観。
- ▶ 船溜まりは海に面した港区として取り上げたい。夕暮れという時間帯も心に沁みる。

## 応募者からの推薦コメント

運河のさまざまな風景は暮らしの一部。夕暮れの爽やかな青色にライトアップされた渚橋、たくさんの小舟が係留されているはしけ、モノレールが行き交う様。足を止めて見入ってしまいます。 **応募者:匿名(区内在住)**

# 高輪の眺めの良い階段

テーマ 私にとっての大事な景色



## 選定に当たってのコメント

高低差の大きい高輪の地形によって生まれた階段街路と、そこから見える品川の高層ビル群の対比が面白い。今後も変化し続ける品川を見守る視点場として、周囲の環境を含めた変わらない風景を大事にしていきたい。

### その他の評価コメント

- ▶ 高輪らしいダイナミックな高低差のある景観をよくとらえています。
- ▶ 摩天楼の都市景観と狭小露地坂の対比が面白い港区の特殊景観を感じられる場所。

## 応募者からの推薦コメント

高輪の品川駅周辺の変りゆく風景と、昔から変わらない高台の階段との組み合わせというのは、東京でも珍しい景観かもしれません。 **応募者:一之瀬 稔(区内在住)**

# みなとパーク芝浦のデッキ

テーマ 私にとっての大事な景色



## 選定に当たってのコメント

このデッキに遠巻きに縁取られて、芝浦公園周辺は景観的な安定感を増したようだ。しかも、デッキに立てば公園に寛ぐ人々の様子が手に取るように俯瞰できる。これにモノレールが華を添える。デッキもまた周囲から魅力を得ているのだ。

### その他の評価コメント

- ▶ 屋外空間のデッキは、公園の緑やモノレールを眺めながらの移動の楽しさもあり、快適である。
- ▶ みなとパーク芝浦へのデッキは1日の借景変化に気づく視点が大事。

## 応募者からの推薦コメント

芝浦公園とモノレールを眺めながら、ムスブ田町へ買い物に行く、日曜日の昼下がり。  
 応募者:伊藤 秀立(区内在住)

# 煉瓦アーチ高架橋1909

テーマ 私にとっての大事な景色



## 選定に当たってのコメント

煉瓦アーチ式の東京市街線高架橋は着工が1900年、浜松町 - 現新橋駅(旧烏森駅)の開業が1909年。応募者は新橋駅西口広場と烏森口から高架橋を捉えている。変貌著しい港区に明治の遺産が現役で存続して都市景観に深みを与えている。

### その他の評価コメント

- ▶ 新旧インフラの縦走する風景が港区らしい。
- ▶ 時代が重なっているようで面白い景観。

## 応募者からの推薦コメント

1909は煉瓦造りアーチ型高架橋の東京市街線の竣工年。記憶は戦後の屋台や場外馬券売り場に集まる人々の熱気だ。今、駅前広場に立てば時代の波に洗われた高架橋は心の安らぎの場だなあ。 応募者:石綿 修一(区内在住)

# 高輪消防署二本榎出張所

テーマ 私にとっての大事な景色  
味わい深い歴史・文化を感じる景観



## 選定に当たってのコメント

かつては江戸のエッジであったため今も多くの寺社が立ち並ぶ二本榎通りの高輪エリア。曲面壁と望楼が特徴的な昭和初期の建築物は、そこから望む令和の高輪ゲートウェイと江戸の寺社をつなぐ要とも言える。

### その他の評価コメント

- ▶ 街区のシンボル 高輪消防署を望む景観はこれからも残す努力を。
- ▶ 東京都選定歴史的建造物になっている。立地的にも目立つし、残り少ない消防署の建築物として取り上げておきたい。

## 応募者からの推薦コメント

立地も建物も目的も変わらないものが身近に残っていることで、励まされています。造ったり、守ったり、今も関心を持ってくれる、まちづくりの関係者の皆さんに感謝しています。

応募者:一之瀬 稔(区内在住)

東京都選定歴史的建造物である「高輪消防署二本榎出張所」越しに高輪ゲートウェイ駅の建設中ビルがあり、新旧の建造物が撮影出来るのがポイントです。

応募者:三枝 修(区内在住)

# 多様な人が集まる、青山のみゆき通りのエンジュ並木

テーマ 回遊したくなる楽しい通りの景観



## 選定に当たってのコメント

かつてはファッションビルのデザインなどで注目されていたみゆき通りですが、現在は、剪定などの管理に細やかに配慮された自然な枝ぶりを生かしたエンジュの並木道として、訪れる人々に美しい景観を提供している点を高く評価します。

### その他の評価コメント

- ▶ 落ち着いた街路空間が形成されているエリアです。
- ▶ 建物のデザインも様々で面白い。

## 応募者からの推薦コメント

みゆき通りは、小学校、能楽堂、洋菓子店、カフェなどが並び、おしゃれな人、小学生など、多様な人が通る。自然に枝葉を広げるエンジュの並木が心地よい。

応募者:藤井 京乃(区内在住)

# 自然の中のカフェ

テーマ 街かどの景観



## 選定に当たってのコメント

撮影時期であるアガパンサスの紫の花が咲く頃は、周囲の緑も一層鮮やかに目を引く光景が広がっていたことが容易に想像できます。このような洗練された建物周囲と庭園が公に開かれ、自由に楽しめる環境こそ港区らしさを象徴していると言えるでしょう。

### その他の評価コメント

- ▶ 整備後時間経過の中で魅力的な環境作りに成功している。
- ▶ 季節毎に移ろう景観と、足元の変化を観察できる楽しい空間。

## 応募者からの推薦コメント

繁華街や賑やかな通りだけでなく、緑溢れる閑静な雰囲気の中にカフェがあったりするのも港区の魅力の一つ。ここはまるで避暑地のような自然の多いエリアで、東京の中心にいることをすっかり忘れてしまいます。

応募者:長岡 吾朗(区内在勤)

# 六本木ヒルズを望む

テーマ 地域の身近なランドマーク景観



## 選定に当たってのコメント

南青山陸橋から見る六本木ヒルズは、少し距離を置いた視点であるため、空の広がりを感じられるとともに、ビル群の中でひとときわ極立ちながらも、青山公園の緑と調和し、風景に溶け込んでいるという印象を受けました。

### その他の評価コメント

- ▶ 道路の分岐点、緑地、超高層ビルの組み合わせとして印象深い。
- ▶ 都心なのに野を越え山を越えのように六本木方面を見晴らせる交差点。

## 応募者からの推薦コメント

六本木ヒルズは港区を代表する景観の一つだと思います。青山公園の緑とのコントラストを愛でてください。

応募者:奥平 浩(区内在住)

# 地域の氏神様 春日神社

テーマ 味わい深い歴史・文化を感じる景観



## 選定に当たってのコメント

958年武蔵国国司の藤原正房が任国の際、目黒区三田に勧請。1533~1555年港区へ遷座。天兒屋根命は祝詞の神、出世の神で藤原氏の氏神。道路とビルに囲まれた厳しい立地だが、会社や学校が多い地域で敬われてきた。

### その他の評価コメント

- ▶ 鳥居階段の特徴的な景観。
- ▶ 都会の一角に佇む神社の景色。

## 応募者からの推薦コメント

三田地区に暮らして50年以上になりますが、引越してきた時に地域の氏神様にご挨拶しようと考え、調べて参拝したのがこの神社でした。

応募者:工藤 裕美(区内在住)

## 〈景観に関する港区ウェブサイト〉



みどりの街づくり賞  
に関する情報



区民景観セレクション  
に関する情報



景観街づくり賞  
に関する情報



区民景観セレクション  
受賞景観ショートムービー

## 「港区景観街づくり賞」

〈港区景観アドバイザー ※敬称略〉  
予備選定をしていただきました。

若松美津子 片岡 照博 村井 一  
岩男 弘美 藤井 亮介 加藤 幸枝

## 「港区区民景観セレクション」

〈港区景観審議会委員 ※敬称略〉  
募集テーマの決定と予備選定をしていただきました。

齋藤 潮 杉山 朗子 長谷 高史  
矢口 哲也 山崎 誠子 渡邊 大志  
奥平 浩 根岸 晴美

# 審査委員総評

## 港区の景観の奥深さを知りました

港区といえば全国的にも著名な景観に満ちているが、この度の区民景観セレクションには地元らしい景観が多数寄せられました。実見しないことには評価を定めにくいという景観もいくつかあって出かけてみると、大事に温めてあったのです、どうです面白い眺めでしょう、ここに来るとホッとするんですといったつぶやきが聞こえそうな景観が待ち受けていました。港区の景観の奥深さを応募者諸兄に教えていただき、選定審査会はそういう楽しい機会でした。

齋藤 潮

港区景観審議会 会長  
東京工業大学 名誉教授

## 杉山 朗子

港区景観審議会 副会長  
株式会社日本カラー  
デザイン研究所  
研究フェロー

## 歴史と先進的開発が共存する眺めの良い街

近年ますます高層ビル化が進む一方、古墳などをきちんと守ってきた方々の想いが実ってきたと言えそうである。海岸沿いを歩いていた古来の生活、京都から江戸への日本の中心地の移動など様々な歴史も見えてきた。地形を活かした開発は時間を経て緑が豊かになり、魅力的な生活空間になってきている実感を持った。眺めの良い場所を楽しんでいる声が皆様に届き、今後も続くことを期待する。

## 散策候補が増えました

なんの気無しに通勤し、運河にかかる橋を幾度となく渡ってきたのに景観の視点がなかった。「区民景観セレクション」の応募作品に関わらせて頂き港区の景観の良さや貴重な景観に気が付きました、目から鱗。人って年齢関係なく成長できますね。様々な視点からの応募作品に発見と感謝です。区内は変化中、古墳のように自然との調和作品が増えることを期待します。

根岸 晴美

港区景観審議会  
区民委員

## 藤井 亮介

港区景観アドバイザー  
藤井亮介建築研究所

## 歴史を知り、視点場を発掘しよう

今回の選定を経て、風景を見ることは歴史を知ることでもある、ということに気付かされました。過去から変化の少ない地形や道などがつくる視点場と、今後も変化のある建築や自然などの対象が合わさることで出来上がる風景。建築や自然をそのまま残すのは難しいかもしれませんが、それらを観察するための視点場を発掘し、その重要さを伝えることが、風景を大事にすることにつながるのではないかと思います。

## 大事な景色とは宝物ということ

今回の応募作品を拝見すると、メインテーマである「私にとっての大事な景色」における「景色」の捉え方がそれぞれ異なり、さまざまな日常の切り取り方が生まれていました。特に、近景・遠景問わず、歴史を伝えるものが今の生活の中に絶妙なバランスで溶け込んでいる様子を表現した作品が多く見受けられました。また、ほとんどの作品に共通して感じられたのは、人はやはり自然や昔からあるものに心惹かれ、それらを大切に思う気持ちを持っているということでした。

若松 美津子

港区景観アドバイザー  
株式会社ウリブカス



## みどりの街づくり賞

港区環境リサイクル支援部 環境課  
港区芝公園 1-5-25 TEL: 03-3578-2330

---

## 景観街づくり賞 区民景観セレクション

港区街づくり支援部 都市計画課  
港区芝公園 1-5-25 TEL: 03-3578-2244

